

全国婦人新聞

発行所
全国婦人新聞社
本社 東京都新宿区西新宿
3-7-28宝幸西新宿ビル
電話 03(343)1846代
振替口座東京 172320

1部85円

ご購読料=
1年 2,000円
(郵送料とも)
但しグループ申
込みは1500円
◎現金・切手・振替
で前納

女性の地位の
向上のために
婦人団体の交
流の場をつく
ります

全国婦人新聞回覧表

サクル内で回覧する折の捺印欄です

再販制度は消費者を守るか

化粧品、薬の一部に残るだけ

問われる公取の姿勢

乱売合戦の落とし子か



デパートで美容講習を受ける女性の顔は真剣



再販される製品に表示されるマーク

千円以下の化粧品と薬の二六品目を残し、九月一日から再販制度(再販価格維持契約制度)が廃止されることになった。昭和二十八年、おとり商売や不当廉売から消費者を守り、乱売合戦から小売業者の経営の圧迫を除く名目で制定されたこの法律は二〇年に渡って業界の中で苦闘し続け、消費者から強い

反響を買ってきた。さまざまな運動の結果、ようやくその一角が崩れ始めたわけだがこれをめぐるメーカー側と消費者側、それに小売店、スーパーの攻防はますます熾いものがある。女性に深く関係する化粧品を中心に、再販制度とは何か、再販制度は消費者にとってどのような影響を与えているのかを考えてみたい。

なせ再販制度ができたか
再販の取組は、メーカーから小売店へ、消費者へ、という流れで進められてきた。昭和二十八年、おとり商売や不当廉売から消費者を守り、乱売合戦から小売業者の経営の圧迫を除く名目で制定されたこの法律は二〇年に渡って業界の中で苦闘し続け、消費者から強い反響を買ってきた。さまざまな運動の結果、ようやくその一角が崩れ始めたわけだがこれをめぐるメーカー側と消費者側、それに小売店、スーパーの攻防はますます熾いものがある。女性に深く関係する化粧品を中心に、再販制度とは何か、再販制度は消費者にとってどのような影響を与えているのかを考えてみたい。

再販制度の歴史
昭和二十八年、公取委員会が「再販法」を制定した。これは、化粧品、薬の一部に残るだけ。

三者(小売店、消費者、メーカー)の課題に

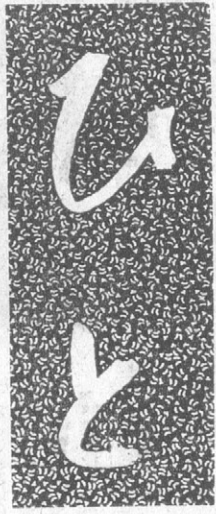
むずかしいポスト再販制度

スロープのP・B
化粧品

化粧品

化粧品

化粧品



ひと

現実に根ざす政治を

謙虚でシンのある人



岩上 妙子さん

岩上 妙子さん

岩上 妙子さん

岩上 妙子さん

岩上 妙子さん

岩上 妙子さん



街を行くお嬢さんはみな美しく化粧している

街を行くお嬢さんはみな美しく化粧している

婦人手帳

婦人手帳

婦人手帳

ご家庭でも、お勤め先でも、ペリな銀行がいいですね。

身近にあります ざっと300余店。

店舗の多い銀行だと、ひとつの総合口座を、ご夫婦でお使いになると、とっても便利です。パンデカードを組合せると、いっそうペリ。

(ご利用ください 太陽神戸のネットワーク)

ありがとうございます。おかげさまで10月1日、創立まる1年。

ひびきおはよう ほんまの輪を
太陽神戸銀行

お茶と紅茶と

「コカコーラ」といふ三題所で、はありまゐるものがあつた。」「の文化と流行をかりをもっている。」という話。

その昔、唐産僧・實智禪が中國から伝えたお茶は、黄旗や高僧など特權階級の人びとのだけの貴重品でした。それが日本中の家庭で飲まれるまでに普及したのは、鎌倉時代、禅宗と結びついた武家階級によつて、精神修養の法となされ入れたのがきっかけか。お茶の到来に普及、いれぬと教との関係なしに語ることはできません。お茶が仏教文化の宗教的存在であることがわかります。

同じように、「お茶と紅茶」というお話です。

かの大英帝國がひとつの雄になつた時代、東洋へ金と茶の輸出を企てた。アッサムの地が英國に運んだお茶は、はじめは、限られた上流階級の人びとが、審美な器に入れて、鐘をかけて戸棚の奥深くしまっておくといわれるほどの高価なものだった。この頃のカルシダシたちのデパート・テイストが、今やギネス・ブックには食事同様に欠かさない「インディアン」のお茶。紅茶は輝ける英帝國と新興市民文化を代表する飲み物でもあったといふまじう、さうしたものに新しい文化がおこり、それだもがの文化を享受できるようにされたとき、人々は新しいフットドリンクを手に入れた。

芥川龍之介

大正四國、経典から狂徒と改竄された手紙

(註文)

芥川龍之介の著書『手紙』は、大正四年（一九一五年）に出版された。これは、芥川龍之介の著書の中で、最も有名な作品の一つである。本書は、芥川龍之介の手紙を集めたもので、彼の私生活や創作活動について多くの情報を提供している。本書は、芥川龍之介の著者として知られるようになった。本書は、芥川龍之介の著書の中で、最も有名な作品の一つである。本書は、芥川龍之介の手紙を集めたもので、彼の私生活や創作活動について多くの情報を提供している。本書は、芥川龍之介の著者として知られるようになった。